



世界に希望を生み出そう

国際ロータリー第 2620 地区 甲府北 ロータリークラブ

2023-2024 年度 2630 回例会 12 月 20 日

地区ガバナー 中村 皇積 クラブ会長 志村 浩男

本日のプログラム

●年忘れ家族会

●会長の時間 志村 浩男 会長



ボーイスカウト甲府第 10 団 上田様 乙黒様 ガールスカウト山梨第 4 団 市村様 米山奨学生 グエンドアン チュン ヒエウ君 そしてご家族の皆様歳忘れ家族例会によろこそいらっしゃいました。御出席ありがとうございます。

さて納涼家族例会の時にもお話をさせていただいたように RI テーマ「世界に希望を生みだそう」を基に「甲府北ロータリークラブを世界平和実現の起点にしよう」を今年度の目標としています。本日の家族例会の目的は「世界平和実現の起点は家庭平和の実現」です。

会員一人一人の心の平和、家庭の平和、地域の平和、日本の平和、世界の平和と波紋が広がるようになれば良いと思います。

ところで私は昨年今年度と韮崎市藤井町坂井区の組長兼土木委員を輪番制で勤めています。区には東京エレクトンの関係で家を建てる若い夫婦が増えています。区長が自治会へ入るよう勧誘に行き区費が年間 12000 円ですと説明すると、何かメリットがありますかと質問されることが多くあり答えに窮するとのことです。なかなかみんなが納得するような答えは難しいのですが私だったら「みんなが長く住み継ぐ地域をよくするために自治会に入ってください」と答えたいと思います。少なくとも大正生まれの亡くなった父が子供のころのお天神講の話をしていましたから大正時代から地域で子供の面倒を見るような自治活動があったのではないかと考えると 100 年以上続いていることになります。そしてその積み重ねが現在の坂井区となるわけです。なかなか尊い営みではないでしょうか。家庭を良くし地区を良くするのが自治会の役目だとすると日本を良くし世界を良くするのがロータリーの役目かなと思います。そう考えると今日はロータリー活動の基礎となる家庭や地域を良くする懇親会です。どうか短い時間ですが皆様本日の例会をお楽しみください。

●2628 回 (12/6) ニコニコボックス紹介

近藤 今年も残りわずかですが、よろしくお願ひいたします。

志村 皆様宜しくお願ひ致します。五味さん 12 月 20 日宜しくお願ひ致します。

廣瀬 甲府市議会が始まりました。8 日は代表質問です。

深沢 春 寒い日が続いています。みなさま体には気をつけて下さい。

古屋 宏 本日はお時間をいただきありがとうございます。インスタグラムをやっている会員の方、ぜひ「いいね」をおねがひいたします。

●2624 回例会 (12/13) ※ZOOM ポリオプラスの時間

ポリオは古くから人類に存在していた感染症であったと考えられています。古代エジプトの壁画や、縄文時代の人骨などにも、ポリオの症状の特徴がみられるといわれています。ポリオ流行の記載は18世紀頃からみられ、1950年代まではしばしば世界各地で流行しました。その後、不活化ワクチンや生ポリオワクチンが開発され、定期接種されることにより多くの国でポリオ患者は激減しました。

WHOは、西暦2000年までに世界からポリオを根絶する計画をたて、地域流行のある国を中心にしてポリオワクチンの定期接種を推進し、さらには、高危険地域では家庭訪問によるワクチン接種の徹底を行ってきました。

日本におけるポリオは、1940年代頃から全国各地で流行がみられ、1960年には北海道を中心に5,000名以上の患者が発生する大流行となりました。そのため1961年に生ポリオワクチンを緊急輸入し、一斉に投与することによって流行は急速に終息しました。引き続いて国産生ポリオワクチンが認可され、1963年から定期接種が行われましたが、生ポリオワクチンのごくまれにワクチン由来の感染を生じるため、2012年から不活化ポリオワクチンの定期接種にかわりました



古代エジプト第18王朝 (B.C.1403～1365年)の石碑に、片足がまひし、杖を突いている人物が描かれています。症状からみておそらくポリオであろうといわれています。

※国際ロータリーのポリオフリーへの闘い：そのルーツ

1979年9月29日、フィリピンのマカティのグアダルーペ・ヒエボ地区にある保健センターで、ボランティアによる児童への経口ポリオワクチン投与が行われました。マニラ都市部でのこの活動は、ロータリアンとフィリピン保健省の代表者が手配しました。

当時のジェームス L. ボーマー会長が最初のワクチンを子どもに投与し、フィリピンのポリオ予防接種活動を開始。これが、ロータリーの「保健、飢餓追放および人間性尊重 (3-H) 補助金」プロジェクトの第1号となりました。

この活動に先立ち、ボーマー会長とフィリピン保健省のエンリケ M. ガルシア長官が、760,000米ドルをかけて数年間で600万人の子どもにポリオ予防接種を行うという国際ロータリーとフィリピン政府の合意書に署名しました。

1993年に行われたインタビューで、ボーマー会長はフィリピン訪問の様子を振り返っています。このインタビューの中でボーマー会長は、ある子供にワクチンを投与した後、横からその子の兄が会長のズボンを引っ張り、「ありがとう、ロータリー」と言ったという逸話について語っています。

このプロジェクトの成功がきっかけとなって、「ポリオのない世界」をつくるのがロータリーの最優先事項となりました。ロータリーは1985年にポリオプラス・キャンペーンを発足させ、1988年にはGPEIの発足メンバーとなりました。ロータリーとパートナー組織の懸命な取り組みにより、経口ポリオワクチンの投与を受けた子どもの数は、全世界で25億人以上に上ります。

